

ばんげい 教育ほつにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径

2010年

8月号
No.22

今月の花／ハイビスカス
花ことば／上品な美しさ、信頼



今月の歳時記

入道雲

高く垂直方向に発達した雄大な雲です。盛り上がった雲の頂が大入道のように見えることから、入道雲と言われています。積乱雲とも言います。雷鳴や夕立、雹などを伴うことがあります。夏を代表する季語ですが、他の季節に見ることができたり、台風などによって発生したりすることもあります。



北 俊夫先生
国士館大学教授

今月のテーマ 教師の研究と修養

- 教師の研究と修養（研修）は法律によって義務づけられており、これらは教師としての人間性や専門性を磨くうえで重要な役割を果たすものです。
- 研修は、さまざまな場や機会をとらえて行うことができます。特に校内研修は、子どもの実態からスタートして、研修の成果を子どもに返すものです。

研修は教職の命綱

「進みつつある教師のみが人を教える権利をもつ」。これはディーステルヴェークの言葉です。教師にとっての研究と修養（これらを一般に「研修」と言っています）は、子ども一人一人の望ましい成長と発達を願って、教師としての人間性を培い、専門性を高めるために行われる日常的な活動です。

教師の研修については、教育公務員特例法の第21条には「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」と示されています。教師の研修は、法律のうえでも、一般の公務員と比べて特に重視されています。

教師の研修内容は、日々の教育活動の改善・充実と直結しています。その意味で、絶えず研修することは教師と



しての仕事を行っていくうえで大切な「命綱」であると言えます。

教師修行あるいは人間修行の意味あいをもつ、研修の意義と役割とその必要性を改めて確認したいものです。

研修の仕方はいろいろ

研修にはどのような場や方法があるのでしょうか。いろいろな分類の仕方がありますが、「校内での研修」と「校外での研修」に分けることができます。校内研修は、その学校の子どもの実態や教師の指導上の課題を踏まえて、その学校の教師が協同で取り組む研修スタイルです。研修内容が日々の教育活動と直結しています。

校外での研修には、教育委員会や教育センター、地域の団体や研究会などが実施する研修会があります。ここでは、より広い視野から教育活動を見つめなおしたり、新しい教育課題について理解したりする機会になります。これには、自主的に参加するものと、法律等によって定められているものがあります。いずれにしても参加者の当事者意識が問われます。

同僚と研究会を自主的に組織して研

修を深めることも大切なことです。家庭で研修することもあります。

研修する内容は、教育や授業に直結するものではありません。社会や世界の動き、経済界の動向など教育界と違った人たちの話を聞いたり図書を読んだりすることは、違った立場から教育のことを考える機会になります。

校内研修の充実がポイント

子どもたちを共通に観察し指導している先生方による研修、すなわち校内研修を充実させることが、教師としての力量を向上させる最適な方法だと言えます。そこには共通した問題意識があり、日常的に取り組むことができるからです。研修は子どもからスタートして、成果を子どもに返すことが重要です。その意味で、「研修の地産地消」と言うこともできます。研修の成果は子どもの成長の変容を観察することによって確認することができます。

校内研修には、学校を元気づける活力増強剤としての働きがあります。校内研修の熱心な学校は、先生方が生き生きしているように感じます。また学校教育が活性化しています。

家庭科の新学習指導要領には、「自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと」が新たに示されました。家庭生活や家族の役割についてしっかり認識させ、家族の一員としての実践的な態度を育てることを目指しています。自分の成長に気づかせることは、簡単そうに思われますが、意図的な指導が必要です。

いま子どもの現状を見ると、家庭の役割が十分に理解され発揮されていないことから、さまざまな社会問題が起こっています。子ども一人一人に誰のどのような働きによって、自分はどのように成長してきたのか。その実態をとらえさせ、家族に支えられて成長してきたことを理解させます。そのうえで家庭生活とは何か。家族とは何かについて考えさせたいものです。

生活科の学習においても、自分自身の成長を振り返り、多くの人たちの支えによって自分が大きくなったことに気づかせる内容があります。学年は離れていますが、両者の関連性と発展性についても留意する必要があります。



授業の前に教科書や必要な学用品などを準備させることは、授業に対する心構えをもたせるうえで大切な指導です。準備には次の二つがあります。

一つは、次の時間に必要なものを授業の事前に用意させるようにします。前の時間が終了した段階で用意する習慣をつけさせます。準備ができている子どもは、次の時間の勉強に対して心の態勢がつくられています。

いま一つは、次の日の準備をすることです。これは家庭で行われますが、前日に用意するよう指導します。もしその段階で足りないものがあれば、補うことができるからです。学校では、翌日の時間割や準備するものなどを連絡帳などにしっかりメモさせます。

学級で「忘れ物調べ」を行い、用紙に記録する場面に出会うことがあります。「忘れた」という結果だけを問題にするのではなく、忘れたという行為に対して、その理由や背景などを確かめ、子どもが意欲を喪失することがないように配慮することが大切です。学用品などの忘れ物に対しても、個に応じた指導が求められます。



教育キーワード 持続発展教育

持続発展教育とは英語でEducation for Sustainable Development と表します。略して「ESD」と言います。わが国では、日本ユネスコ国内委員会などが推進しています。

ESDは、持続可能な社会づくりのための担い手をつくることを目標に掲げています。人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を養うとともに、他人、社会、自然環境とのそれ

ぞれの関係性を認識できる人間を育成することを目指しています。

ここでは、国際理解教育、世界遺産教育、環境教育、エネルギー教育、人権教育など個別の教育課題に取り組むとともに、これらの課題に総合的に取り組むことを求めています。

現在、大学や研究機関をはじめ、指定を受けたユネスコ・スクールなどで実践が始まっています。

学級通信に使える今月のイラスト



貝がら

スイカ

「教育の小径」定期購読のお勧め

ご希望の学校に、「教育の小径」を毎月弊社から直接お届けします。学校名・所在地・ご担当の先生名・部数を、FAXまたはEメールで文溪堂営業企画室までご連絡ください。

FAX.058-398-2821 Eメール e-kikaku@bunkei.co.jp

Information (PR) 指導と評価をサポート!



新しい指導計画作成のための
目標分析と具体的評価規準
◎監修 梶田毅一 ◎定価 1,800円(税込)
◎付録 CD-ROM(評価規準シート)
A4判・272ページ・2色



改訂 実践教育評価事典

◎監修・著 梶田毅一 加藤 明
◎定 価 2,520円(税込)

B5判・240ページ・1色

発行 株式会社文溪堂



企画・編集 ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂 発行日：2010年8月1日